

## 『幾何公差の解釈と測定技術の実践』

実施日程	令和5年11月30日(木) 12月1日(金) 9:30~16:30(2日間コース)
定員	(先着) 20名
対象者	測定、検査、設計に <u>3年以上</u> 従事した技能・技術者 (測定従事者・設計者・現場技術者など、製造に携わるすべての方)
実施場所	神戸市産業振興センター 9F 904.5室 (JR神戸駅より徒歩6分程)
受講料	お一人様 2,000円(資料代含む)
お問合せ	神戸市機械金属工業会事務局 担当: 塩崎 TEL078-360-3260
お申込み	2枚目のセミナー申込書を当会までFAXでお送りください。

コース  
概要

製造業の海外シフトが進み、日本の製造現場では従来の寸法公差だけでは製品形状の品質維持が困難になってきています。このような状況を打開するために、世界統一規格である【幾何公差】を利用し、物の形や大きさ、位置関係を指示したり/されたりします。本コースでは、製造現場において【幾何公差】をどう扱い、どのようにして測定するのか。また、三次元測定機を使用しない方法での幾何公差測定方法を、事例を交えて習得します。

講師  
紹介

講師: 近畿職業能力開発大学校 佐藤 桂

幾何公差の記号が記入される図面を多く見かけるようになりました。正しく理解し、測定しなければクライアント先とトラブルになり、会社の信用問題にかかわることも……。また、幾何公差は三次元測定機にて測るものとお考えの方が多いたりますが、加工現場でも十分に測定できる方法があります。

本セミナーは測定従事者のみならず、設計者や現場の方々など、製造に携わるすべての方を対象に開催します。

内  
容

1. 主な幾何偏差の意味と幾何公差域
2. 幾何公差の図面指示の留意点
3. データムの考え方と図面指示の原則
4. 主要な幾何公差の解釈
5. データムの設定と加工誤差との関連
6. 幾何公差域の解釈と加工
7. 加工方法による幾何偏差への影響
8. 幾何公差の図面指示と測定誤差
9. 主要な幾何偏差の測定技術とその実習
10. まとめ



受講者の声

- ・幾何公差について設定の考え方や計測方法を知ることができた。
- ・分かり易く説明していただいた。幾何公差の知識について理解があいまいだったところが理解できた。
- ・今まで何となく理解できてしまった幾何公差について学び直せた。また、普段あまり関わらないような職種の方の発言などが新鮮だった。
- ・幾何公差において機械精度まかせという意味が理解できた。データムに対する理解が深まった。
- ・幾何公差を指示すべきもの、指示する内容、またそれがどの様に測定されるか分かった。
- ・今回のセミナーで知識及び技能・技術をより深めることができました。これにより、解釈をまちがえずに理解できるためよかったです。
- ・会社で教育をされておらずOJTのみにたよっている状態なので、自分の知識にてらしあわせて理解することができた。
- ・実際に測定を行えた。真円度測定について詳しく学べた。
- ・図面を読み解き機械加工の精度向上に役立てたい。

## 研 修 申 込 書

令和 年 月 日

No.	ふりがな 受講者氏名	年 齢
1		歳
2		歳

会社名			
所在地	〒 -		
担当者名	所属部署	TEL	
		FAX	
申込確認メールをしますので、 メールアドレスをご記入ください→			@

セミナー申込は FAX 078-360-1457 までお送りください。

※応募締切は 令和5年9月29日（金） ただし、先着順で定員になり次第終了となります。

※こちらの研修事業は厚生労働省地域活性化雇用創造プロジェクトを活用して開催いたします。

つきましては、参加企業様へは事業年度内に行う雇用調査にご協力いただきたく、よろしくお願いいたします。